

2024年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	所康弘ゼミナール
活動テーマ	「国際平和都市千代田区宣言」を共に実現するための協働イベント—市民参加型映画祭 <u>L</u> atin <u>A</u> merican and <u>C</u> aribbean <u>F</u> ilms for “ <u>F</u> uture” (LACFF) の開催—
活動期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 2月 28日
主な活動場所	東京都千代田区、成田市、東京都港区、明治大学駿河台キャンパス、その他（フィールド調査先）
連携地域 連携団体等	後援機関：外務省、千代田区、メキシコ合衆国大使館、コロンビア共和国大使館、エクアドル共和国大使館 連携機関：土浦日本大学中等教育学校、一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE
活動者数	48 名 （学生47名、教員1名） ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

【地域が抱える課題と本活動との関係】

明治大学駿河台キャンパスが所在する東京都千代田区は、皇居周辺や永田町・霞が関など、政治の中心が集まる場所であり、また 16 カ国の大使館が集まる国際都市でもある。このため、区と大使館・外国公館は連携し、国際交流や国際理解を進める取り組みを行っている。その一方、千代田区が掲げる「国際平和都市千代田区宣言（平成 7 年 3 月）」については、あまり広く知られていないかもしれないが、この宣言には、千代田区およびそこで学ぶ明治大学の関係者が目指すべき方向性と果たすべき役割が記されている。

宣言の一部には、次のように記されている。

「世界の各地で争いがあり、飢えで苦しんでいる人々がいる。地球環境の破壊が続いている。今はもう、自分たちだけの平和と安全を考える時代ではない。国際都市・千代田区に住み、働き、学ぶ私たちは、世界の人々と連帯し、核兵器をなくし、平和な世界を築き上げよう」。

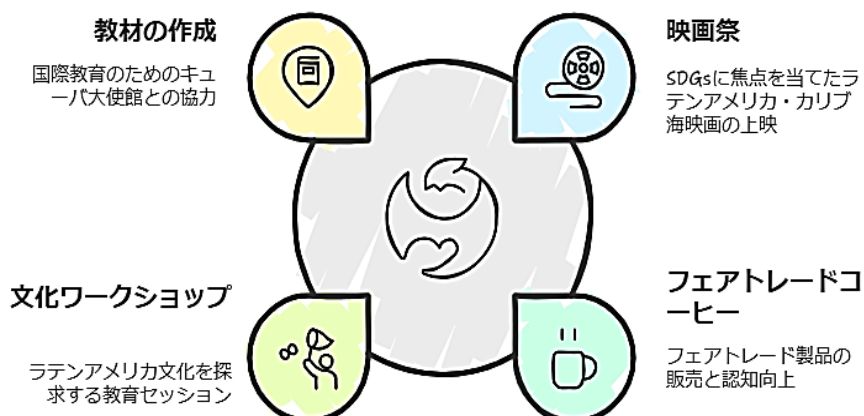
この理念の背景には、国際平和や持続可能な地球環境の実現には、世界各地の多様な国や地域が直面する課題への深い理解と共感が不可欠であり、その理解を深めるために、市民参加型の学びの場が一層求められているという考えが込められていると考えられる。

この前提に基づき、商学部所康弘ゼミでは、この理念の実現に向けた取り組みの一環として、一般財団法人こころ豊かな社会をつくるための子ども教育財団から助成金を受け、2023 年度（2024 年 1 月）に千代田区、外務省、駐日外国公館などの後援を得て、市民参加型の映画祭「第 1 回 Latin American and Caribbean Films for 'Future'（LACFF）～ラテンアメリカ・カリブ映画で触れる SDGs～」を開催した（累計参加者：300 名）。

千代田区にある明治大学で学ぶゼミ生自身が、「国際平和都市千代田区宣言」の理念を具現化することを目指し、映画祭運営委員として企画・運営を担った。本活動は、2024 年度（2025 年 1 月）に開催予定の第 2 回 LACFF へとつながる一連の取り組みの一環として位置づけられる。

【地域の課題解決や活性化にどのようにつながるのか】

国際平和都市千代田区の達成に向けた取り組み



アプローチ①

教員の専門分野であるラテンアメリカ・カリブ海地域は、映画産業が盛んな「映画大国」が多く存在する。この地域の強みである映画を活用し、「国際平和都市千代田区」の実現を目指して、持続可能な開発のための 17 の国際目標（SDGs）に沿った作品を駐日外国公館と共に選定する。これにより、千代田区民や一般市民に対し、SDGs について考える機会を提供し、サステナブルな未来に向けた社会的課題の認識と共有を促進する。

アプローチ②

映画祭期間中に、メキシコ・オアハカ州産のフェアトレード・オーガニック・コーヒーの販売を実施するとともに、フェアトレードの認知向上を目的としたポスター展示を同時開催する。これにより、SDGs の目標 1「貧困をなくそう」や目標 2「人や国の不平等をなくそう」に関連する社会的課題を喚起し、シナジー効果を生み出すことを狙う。

アプローチ③

国際理解・多文化共生ワークショップ「ラテンアメリカ多文化ツアー」を同時開催し、明大生や明大 OB が勤務する土浦日本大学中等教育学校の生徒たちと協力して、一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE の支援のもと、ラテンアメリカ・カリブ諸国の魅力を子どもたちに伝える企画を実施する。また、このワークショップで使用する国際教育教材は、駐日キューバ大使館の協力のもと製作する。これらは、SDGs の目標 2「人や国の不平等をなくそう」や目標 4「質の高い教育をみんなに」に関連する活動である。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

【活動目的を達成するための具体的な手順や方法】

アプローチ①の手順・方法

（ア）上映映画の選定

駐日外国公館の文化担当者、国立映画研究所（IMCINE）、メキシコ映画学校（CCC）、キューバ国立芸術・映画産業協会（ICAIC）、エクアドル映画産業協会（CNCINE）など、各国の映画関連機関と協力し、候補作品を選定する。

（イ）上映作品の決定

各機関との調整を経て、最終的な上映作品を決定する。

（ウ）字幕の制作

日本語字幕は専門業者に外注し、制作を進める。あわせて業者との打ち合わせを行う。

（エ）ワークショップの実施体制構築

企画立案、スケジュール管理、運営マニュアルの作成、スタッフとの打ち合わせ会合を実施し、ワークショップの運営体制を確立する。

（オ）広報活動

認知度向上と集客のため、以下の広報活動を実施する。

- ・映画祭専用ホームページの更新
- ・映画祭専用 SNS による情報発信

- ・ 駐日外国公館の公式 SNS を活用した情報発信
- ・ 千代田区の掲示板へのチラシ掲示、区運営ホームページでの広報
- ・ 関連団体（例：ラテンアメリカ文化交流協会、日墨交流会、社団法人ラテンアメリカ協会、キューバ友好円卓会議など）や映画関係者との連携による情報発信
- ・ 千代田区の学童クラブ、児童館、学習塾、英会話学校などへのチラシ配布

アプローチ②・③の手順・方法

（ア）国際教育教材のコンセプトの確定

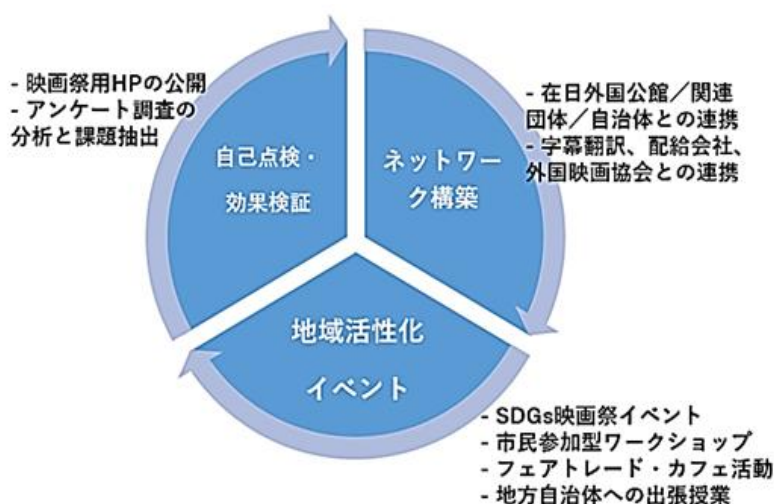
対象：主に小・中学生を対象とし、日本語と英語を併記する。

内容：災害が多い国であるキューバをテーマに、防災対策、教育、食文化、歴史について解説する。

特徴：単なる情報提供に留まらず、参加者が考え、作業し、話し合うことができる内容とする。楽しみながら学び、気づきや発見を得られる設計を目指す。

（イ）インタビュー調査の実施

キューバ大使館の外交官数名にインタビューを行い、その調査結果を教材に反映する。



【申請団体と連携地域・団体が担う役割】

申請団体の役割

申請団体は、本イベントの実施主体として、すべてのステークホルダーとの調整を担い、企画立案・運営・実行を統括する。また、映画祭および関連ワークショップの成功に向けて、各関係機関と連携し、円滑な進行を図る。

各ステークホルダーの役割

駐日外国公館

映画作品の情報提供、精査・選定

当日のゲスト参加（作品解説・挨拶スピーチ）の調整

後援名義の提供および宣伝広報活動への協力

外務省

後援窓口である中南米局中米カリブ課と連携し、当日のゲスト参加（挨拶スピーチ）の調整

千代田区

後援名義の提供および区民への宣伝広報活動への協力

キューバ大使館

外交官へのインタビュー調査の実施への協力

対象者：ホルヘ・クレスポ参事官、カティア・モンソン参事官、ダイロン・オヘダー等書記官、ジョセリン・カバニャス三等書記官

国内外の映画配給会社

映画データの提供および字幕翻訳の作業

土浦日本大学中等教育学校／一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE

国際理解・多文化共生ワークショップ「ラテンアメリカ多文化ツアー」の運営スタッフおよびイベントコーディネーターとして協力

【過年度の活動実績や次年度以降の継続性】

過年度の事後報告：<https://www.meiji.ac.jp/cip/info/2023/mkmht000000yijjy.html>

第1回映画祭は、2024年1月13日に駿河台キャンパス・グローバルホールにて開催した。映画祭では4作品を上映し（詳細は下記参照）、累計来場者数は300名を超えた。また、以下の関連イベントを実施した。

フェアトレード販売（約80杯を販売）

フェアトレード啓発ポスター展示

市民参加型ワークショップ「ラテンアメリカ食文化の紹介」（約80名が参加）

上映作品概要（過去の上映作品）

Corazón de Mezquite（ルシアの祈り）（メキシコ、75分）

SDGs 目標：目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

El Mayor（少将）（キューバ、112分）

SDGs 目標：目標10「人と国の不平等をなくそう」

Plaza Catedral（プラサ・カテドラル）（パナマ、85分）

SDGs 目標：目標1「貧困をなくそう」

Mañana no te olvides（明日、忘れないで）（ドミニカ共和国、117分）

SDGs 目標：目標10「人と国の不平等をなくそう」

【次年度以降の継続性】

2025年度も引き続き、第3回映画祭および関連企画を実施する予定である。さらに、2025年度からはゼミナール活動に加え、商学部正課科目「特別テーマ実践科目D」を新たに開講し、その一環として、「第3回SDGs映画祭 Latin American and Caribbean Films for “Future” (LACFF)」の企画調査・運営・開催に関わる実践活動を位置づける。これにより、より多くの学部生が参加できる体制を整え、発展的な展開を目指す。

活動スケジュール

4～7月：映画作品の選定（映画製作会社・プロデューサーと交渉）、文献調査（各国の社会的課題の析出）、映画解説用の原稿作成

4月5日：キューバ大使館訪問・インタビュー調査（その後、11月まで教材制作&フィールド調査）

4月19日：キューバ大使館訪問

5月20日：エクアドル大使館主催映画上映会参加

6～7月：コロンビア大使館訪問、エクアドル大使館訪問

8～9月：フェアトレード啓発ポスター制作

8月16日：土浦日本大学中等教育学校との打ち合わせ（その後、ZOOM や LINE を通じた打ち合わせ）

8月25日：一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE との打ち合わせ（同上）

9月20日：一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE との打ち合わせ

9月29日：グローバルフェスタのワークショップ参加

10～12月：広報活動の展開、ワークショップイベントの企画・立案、千代田区との確認作業

11月30日：成田市役所での映画祭広報・内容紹介活動

12月13日：メキシコ大使館でのイベント実施（サステナブル・カカオ&フェアトレード講演会）

1月：地域活性化イベント開催

1月17日：番組取材者との打ち合わせ

1月18日：映画祭／千代田区民向けワークショップ／フェアトレードカフェ販売

2月：終了後アンケート調査の分析・自己点検

2月20日：SDGs フェス（東京ケーブルネットワーク主催）に出展（本映画祭事業の報告・紹介）

2～3月：課題の析出、次年度開催に向けた準備開始

活動成果

1. 映画祭

映画祭では、外務省中南米局中米カリブ課長の佐藤慎市氏、駐日メキシコ大使館文化担当官の María Torillo 氏、駐日コロンビア大使館特命全権大使の Gustavo Makanaky Córdoba 大使、三等書記官の Pablo Cardona 氏、そして駐日エクアドル大使館の María Elena Moreira 全権公使といった各国を代表する要人たちのスピーチが行われた。それぞれが、自国映画の上映への感謝を述べるとともに、日本とラテンアメリカ諸国との文化交流がもたらす未来への希望を語り、会場は温かい拍手に包まれた。

上映されたのは、メキシコ、コロンビア、エクアドルの三作品。それぞれが国際的な映画賞に輝いたり、国連女性機関（UN Women）との共作であったりと、どの作品も観客を惹きつける物語を紡いだ。観客からは、「三作とも違う国、異なる内容で、新しい視点を得られた」といった声や、「珍しいコロンビアの映画を観る機会に感謝。勇敢な女性たちの姿に心を打たれた」といった感想が相次ぎ、延べ300人を超える観客の心に印象を刻んだ。

なお、以上の成果の一部は、HP で公開されている。<https://meijinow.jp/meidainews/social/112014>

【上映作品一覧】

1. 『忘れ得ぬひと』（104分、メキシコ、2018年）

SDGs 目標：目標 11「住み続けられるまちづくり」、目標 1「貧困をなくそう」

- 『水が集う時 ～女性と平和、安全保障のストーリー～』（85 分、コロンビア、2022 年）

SDGs 目標：目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」

- 『少女の名の下に』（103 分、エクアドル、2011 年）

SDGs 目標：目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」



映画祭の様様：（右）駐日エクアドル大使館 María Elena Moreira 全権公使による映画紹介と挨拶

映画祭の様様：（左）駐日コロンビア大使館 Pablo Emilio Cardona 書記官による映画紹介と挨拶

映画祭のチラシ：（左）表面、（右）裏面

【来場者アンケート ※ 回答を内容ごとに分類し、一部引用】

映画祭の意義と評価

- 「単なる映画の上映会ではなく、中南米の理解促進と SDGs 推進にしっかりつながる取組で、非常に素晴らしかった」
- 「とても面白かったです。貴重な機会をありがとうございました」
- 「子どもたちの生き生きとした演技に引き込まれ、エクアドル映画の世界に没入していました。次回

の映画祭が待ち遠しいです」

- ・「素敵なイベントなのでもっと広く周知されてもいいのかなと思いました」

作品の内容と学び

- ・「三作とも違う国、異なる内容で、またそれぞれの国のことも知れてとても興味深かったです！」
- ・「珍しいコロンビアの映画を観る機会をつくっていただきとても感謝しています」
- ・『水が集う時』では、全く知らなかったコロンビアの状況や勇気を持って平和的に闘い続ける女性たちの姿を知り、とても感動しました」
- ・「特に最初のメキシコ映画は、とても興味深かったです。怒りと悲しみに満ちた作品と感じました」

社会的課題への気づきと SDGs への意識

- ・「強制退去やジェントリフィケーションに抵抗する住民、自分には想像できない世界でもあり、映像で見ることができ、少しは実際の環境を理解できたのではないかなと思う」
- ・「貧困や街づくりについて、普段あまり自分の事として捉えることがなかったため改めて問題意識をもつ機会となった」
- ・「経済発展に伴う都市再開発は一定の避けられないものであるが、弱者の権利と生活をより一層保護する必要があると認識することができた」
- ・「問題を解決するためにも SDGs についてさらに検討しなければならない」

映画祭の継続・発展への期待

- ・「来年もぜひやって欲しいです」
- ・「他にもラテンアメリカの映画作品や文化に触れてみたいです。また次の機会があれば是非参加したいと思います」
- ・「これからも千代田区民対象にした明治大学の取り組みを進めていっていただけると有り難いです」

感情分類とその分析結果

すべての回答が肯定的（ポジティブ）または中立的（ニュートラル）な感情であった。全体として、映画祭への評価は非常に高く、多くの参加者が映画を通じて学びや気づきを得ていることがわかった。今後の映画祭の継続や、さらに幅広い作品の紹介への期待も感じられた。

2. 多文化共生・異文化理解ワークショップ



（左）ワークショップ後、運営スタッフ全員で記念撮影



（右）運営スタッフと駐日コロンビア大使館 Gustavo Makanaky Córdoba 特命全権大使（中央：大使）

同時開催のワークショップでは、明大生と土浦日本大学中等教育学校の生徒たちの約 35 名が協働し、一般社団法人 LITTLE ARTISTS LEAGUE の協力を得て、子どもたちにラテンアメリカ・カリブ諸国の魅力を伝える楽しい企画を展開した。親子で約 50 名の参加者があった。クイズ大会や国旗の塗り絵などのアクティビティを通じて、参加した子どもたちはこの地域を身近に感じ、新しい興味と好奇心を抱くひとときを過ごした。映画祭とワークショップを通じて明らかになったのは、SDGs の目標達成に向けて社会的課題を発見し、それに取り組むためのグローバルな視点の重要性である。そして何より、文化と芸術を通じた国際交流が生む相互理解の大切さが共有された。



ワークショップのチラシ：(左) 表面、(右) 裏面

3. フェアトレード啓発スター展示&カフェ販売

期間中、フェアトレード・コーヒーの販売を行うとともに、フェアトレードの認知向上を目的としたポスター掲示を実施した。これにより、先進国と途上国の間に格差が生じ、不公平な貿易が行われている現状を広く周知し、解決策の一つとしてのフェアトレードの仕組みを千代田区民や一般市民とともに学ぶ機会とした。実施にあたり、フェアトレード・タウンである逗子市でのフィールド調査、海外のフェアトレード大学であるカナダ・アルバータ大学へのインタビュー、さらには産地メキシコの小規模コーヒー生産者へのインタビューなど、事前調査を実施した。調査を通じて明らかになった、フェアトレードのメリットに加え、それが抱える様々な課題についても当日、知見を共有した。



(左) 使用したポスターの一部、(中央) 掲示されたポスター、(右) フェアトレード・コーヒー販売の様子

4. 頒布用教材冊子の製作

キューバ大使館（東京都港区）を訪問し、外交官 4 名へのインタビュー調査を実施した。自然災害・防災、キューバの経済システム、教育、ツーリズム、防災対策など 4 つのテーマについて外交官と意見を交わした。特に、キューバ当局の災害リスク管理の施策について議論を行い、外交官からは「災害リスク軽減管理に関する指令」（2022 年全国防災本部長発布）の内容や運用システムに関する詳細な説明と関連資料が提供された。以上の知的交流とインタビュー調査を基に、50 ページにわたる国際教育教材を制作し、当日のワークショップで活用した。

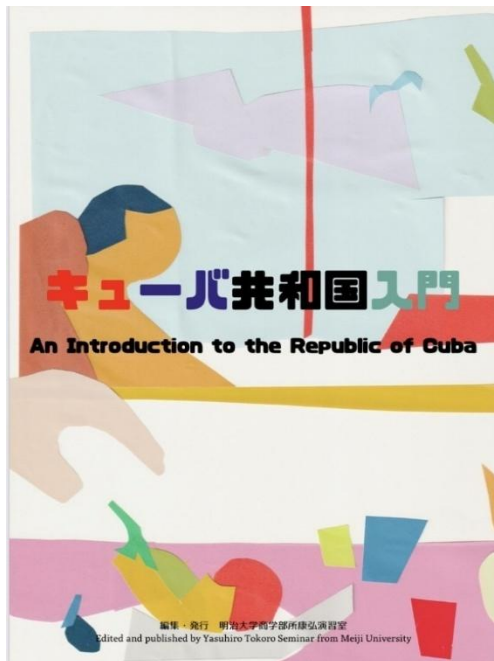
また、この教材はキューバ大使館にも 100 部寄贈された。冊子では、ハリケーンなど自然災害が多い国であるキューバの防災対策を中心に、教育、食文化、歴史についても解説している。さらに、読者が考え、作業し、話し合うことができる内容となるよう工夫を施した。冊子は、大使館主催イベントの参加者や一般市民に頒布される予定である。



（左）キューバ大使館内でインタビュー調査を実施（中央、キューバ大使）



（右）冊子を Gisela GARCÍA 特命全権大使（2 列目中央）へ寄贈



冊子：（左）表紙、（右）裏表紙